

業績ハイライト

平成29年度中間期の連結業績については、三井住友信託銀行における手数料関連利益および市場関連利益の減少を主因に業務粗利益が減少し、実質業務純益は前年同期比194億円減益の1,266億円、親会社株主に帰属する中間純利益は同124億円減益の754億円となりました。

親会社株主に帰属する中間純利益は前年同期と比較して減益となりましたが、通期公表予想1,500億円に対する進捗率は50%となりました。

■ 平成29年度中間期決算の概要(連結)

(単位: 億円)

	平成28年度 中間期	平成29年度 中間期	増減
実質業務純益	1,461	1,266	△ 194
資金関連利益	970	954	△ 15
手数料関連利益	1,961	1,924	△ 37
その他	474	403	△ 71
経費	△ 2,068	△ 2,137	△ 69
経常利益	1,374	1,177	△ 197
親会社株主に 帰属する中間純利益	879	754	△ 124
与信関係費用	7	46	38

(単位: 億円)

	平成28年度 中間期	平成29年度 中間期	増減
自己資本当期純利益率 (自己資本ROE)	7.39%	6.02%	△1.37%
1株当たり中間純利益 (EPS) [※]	円 銭 229.51	円 銭 197.49	円 銭 △ 32.02
	平成28年度	平成29年度 中間期	増減
総資産	654,537	655,296	758
純資産	27,916	27,758	△ 158
1株当たり純資産 (BPS) [※]	円 銭 6,437.58	円 銭 6,645.15	円 銭 207.57
信託財産残高	261兆円	271兆円	10兆円

※ 当社は平成28年10月1日付で普通株式10株につき1株の割合で株式併合を実施致しました。平成28年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、上記のEPSおよびBPSを算出しています。

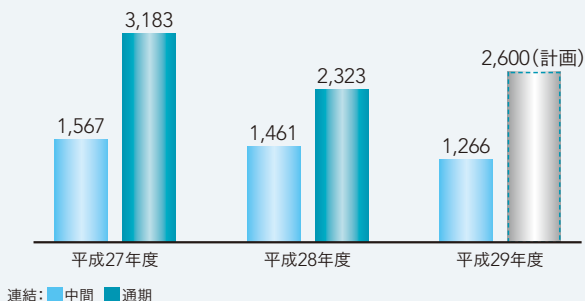
平成29年度中間期振り返り

> グループ中期経営計画「第2の創業」をスタートさせ、実質業務純益、親会社株主に帰属する中間純利益は、通期公表予想に対し概ね5割の進捗で推移

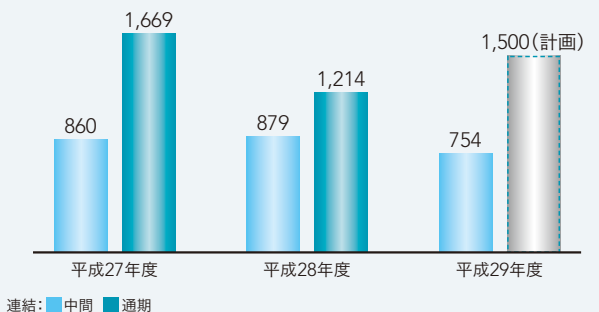
> 専業信託銀行グループとして、手数料ビジネスのさらなる強化やバランスシートの効率性・収益性追求等ビジネスモデル変革への取り組みを継続

> 自己資本比率等は、規制要求を十分に上回る水準を継続して維持

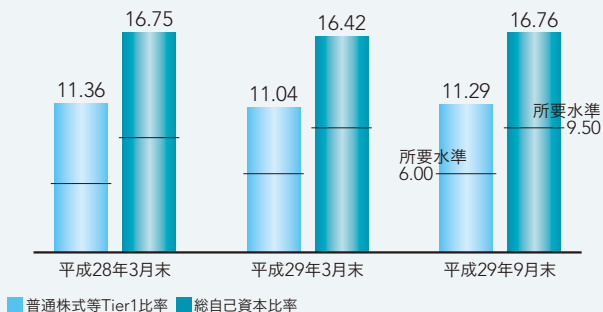
■ 実質業務純益 (億円)



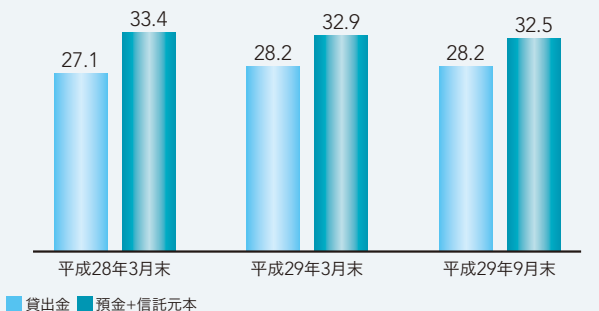
■ 親会社株主に帰属する中間(当期)純利益 (億円)



■ 自己資本比率等 (%)



■ 貸出金・預金(三井住友信託銀行) (兆円)



■ 金融再生法開示債権(三井住友信託銀行) (億円)

